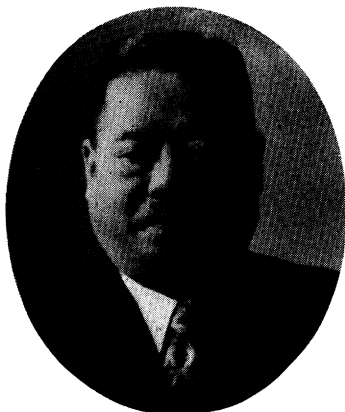




平山復二郎



種谷実



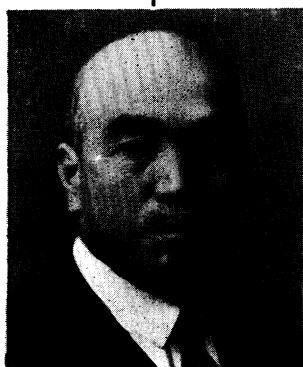
米田正文

昭和31年度土木学会役員氏名

会 長	平 山 復 二 郎 (新任)	ピー・エス・コンクリート株式会社々長
副会長	種 谷 実 (留任)	日本国土開発株式会社取締役副社長
同	工博 米 田 正 文 (新任)	建設省 建設技監
理 事	工博 東 寿 (同)	運輸省港湾局建設課長
同	飯 吉 精 一 (同)	鉄道建設興業株式会社取締役業務部長
同	河 北 正 治 (留任)	建設省道路局国道課長
同	柴 橋 種 造 (同)	日本国有鉄道施設局管理課長
同	畠 山 正 (同)	通商産業省公益事業局水力課長
同	工博 平 井 敦 (同)	東京大学教授 工学部
同	逸 見 正 則 (新任)	運輸省東京陸運局鉄道部長
同	工博 丸 安 隆 和 (新任)	東京大学教授 生産技術研究所
同	山 本 三 郎 (留任)	建設省 河川局長
同	米 屋 秀 三 (新任)	早稲田大学教授 理工学部

## 土木学会名誉員推挙者報告

### 工学士 谷口三郎君



谷口三郎氏は明治 42 年、東京帝国大学工学部土木工学科を卒業後、ただちに内務省に入り、北海道庁、本省、大阪土木出張所に勤務されたのち、本省第一技術課長、東京土木出張所長、内務技監等の要職を歴任せられ、その間、淀川、利根川はもちろん、わが国すべての河川の治水計画に氏の構想の入らないものはないのであります。

また、昭和 17 年に退官されてからは鴨緑江、黄河等、外地河川の治水にも尽力せられ、終戦後、昭和 23 年まで山西省自然科学研究院顧問、汾河水利事業委員会総工程師として活躍せられ、帰還後は建設工事の機械化を提唱せられて、昭和 26 年に発足した日本建設機械化協会の初代会長として尽力せられたので、現在同協会の名誉会長であり、また各府県の顧問、建設省専門委員等として寧日なく活躍せられておられます。

土木学会にあつては、昭和 5、6 年常議員、昭和 14 年副会長引続き 16 年第 29 代会長として学会の運営に尽力せられたのみならず、特に若い技術者の指導訓育に意を注がれ、土木技術界の発展のために貢献されている効績は、まことに顕著でありますので、ここに土木学会名誉員に推挙いたしたいと存じます。

### 工学博士 島崎孝彦君



島崎孝彦氏は明治 31 年、現在の京都大学の前身である第三高等学校工学部土木工学科を卒業後、ただちに内務省に入り、約 10 年間、治水および上下水道関係に従事せられ、明治 44 年朝鮮総督府に転じ、その後、大正 11 年大阪市に入り、水道部下水課長、同水道部長を歴任、昭和 15 年退職せられるまで、上下水道の権威として活躍せられました。

その間、昭和 4 年欧米各国へ上下水道の研究に出張せられ、昭和 12 年に工学博士の学位を得られました。

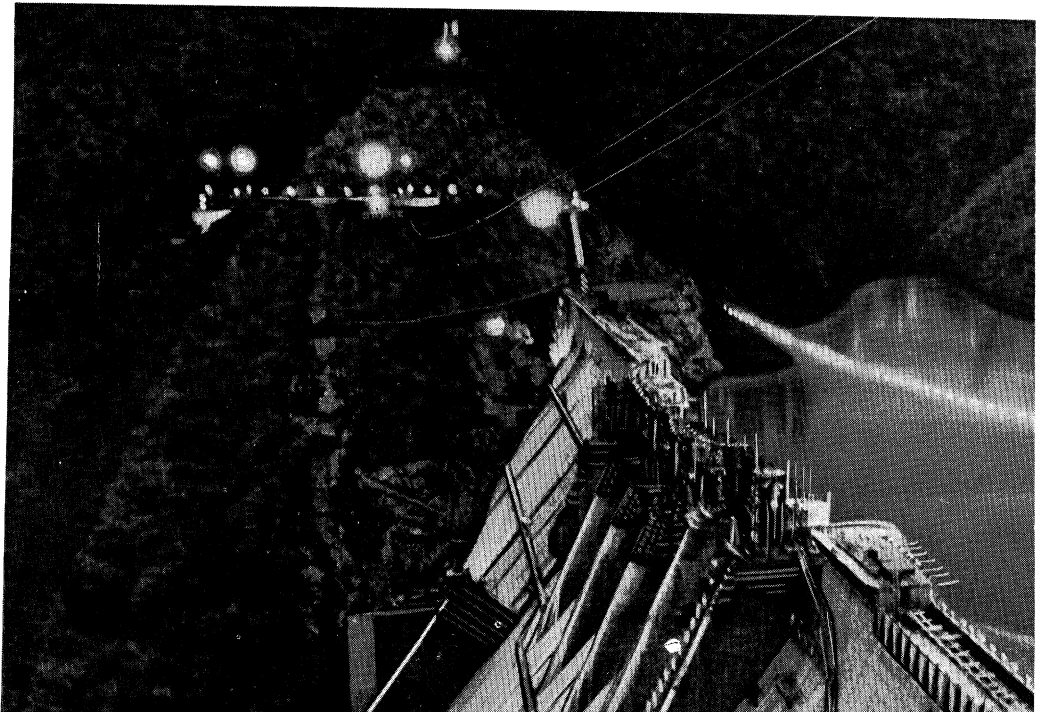
土木学会にあつては、昭和 8 年から 13 年まで 6 年間の永きにわたり、関西支部商議員、幹事長、支部長として支部発展のため非常に尽力せられたのであります。

以上のように斯界のため貢献せられた効績まことに顕著でありますので、ここに土木学会名誉員に推挙いたしたいと存じます。



(共同通信社 提供)

## 着々と建設進む佐久間ダム！！



(東京新聞社)

